

ELKの山歩き

北穂高岳／乗鞍岳・長野

◎日程◎ 平成20年8月19—23日
(火—土)

◎行程◎

19日

22:40・今治港発 (フェリー)

20日 (歩行約2時間)

05:50・神戸港着

13:00・上高地

15:40・徳澤園

21日 (歩行約6時間)

07:10・徳澤園

08:10・横尾山荘

09:20・本谷橋

11:20・涸沢

13:20・南稜取付

15:20・北穂高山頂

15:40・北穂高小屋—泊

22日 (歩行約8時間)

06:10・小屋発

07:40・南稜取付

09:00・涸沢小屋

09:30・涸沢ヒュッテ着

10:15・ヒュッテ発

11:40・本谷橋

12:50・横尾山荘

16:30・上高地

18:00・乗鞍温泉ペンション—泊

23日 (歩行約2,5時間)

07:40・ペンション発

09:00・畳平

10:20・乗鞍岳

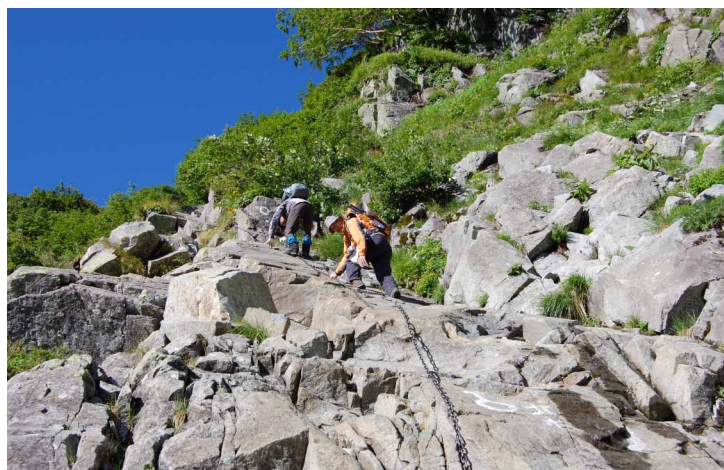
11:30・畳平

14:00・高山IC

22:30・今治着—解散



▲ 真紅に染まる穂高の岩峰



▲ 慎重に北穂高の急な岩場を下る



▲ 北穂高岳を背に岩稜にて満足な笑顔で

北穂高岳のレポートは、矢原 勝利氏に
お願いしました。↓

OUTDOOR SHOP ELK
<http://elk.fc2web.com/>

TEL (0898) 23-7001
e-mail outdoor_elk@yahoo.co.jp

此の度の山行は、参加者が、槍、奥穂、北穂グループに分散して、それぞれの頂を、目指す計画である。上高地より入山し、徳澤にて、アプローチが長い為に、横尾に宿を取る 槍グループを見送り、穂高グループは、徳澤園に宿を取る。翌朝には宿舎の屋根を激打した雨も落ち着き、小雨の中を出発。横尾大橋を渡り針葉樹林帯を抜け、横尾谷の左岸に出る。対岸に小雨に煙る屏風岩を眺めながら進む。やがて谷を離れ横尾尾根の中腹を巻き再び瀬音が大きくなり本谷橋に到着。小休止の後、涸沢へと急坂を登る。何時しか横尾本谷から離れ傾斜も緩み、右上にヒュッテの吹き流しを眺めながら進む。Sガレを過ぎ僅かな雪渓を登り涸沢に到着。涸沢小屋にて奥穂グループを見送り、残った男性3人が北穂へとアタックだ。

まずは、北穂沢の右岸を急登する。可憐な花達も出迎えてくれるが小雨の中、カメラを出す術もなく、ただひたすら、足元を見据えて登るのみである。やがて、いやなゴーロ帯に入り斜上してクリアーし、ハイマツが目につきだすと南稜取付の鎖場だ。慎重に攀じて小休止、眼下には豆粒が如きヒュッテの赤い屋根と、ザイテングラードに行く仲間らしき一行が見える。ここからが、正念場だ。あえぎ、あえぎ、岩の急登を繰り返し、やっとの思いで奥穂への分岐に到着。北穂へは200メートルの標識、ついに憧れの頂上に立つ。小雨は尚も降り続いており、明朝の写真のスポットなどを確認して小屋に入る。翌朝、昨日の天気は嘘のように晴れ渡り、眼下一面に大雲海が広がり、眼前には槍の鋭峰が秋天を貫き、背後には鷲羽、水晶、黒部五郎、薬師、後立山連峰の山々、常念、蝶ヶ岳、頭を回せば富士山、その右側に甲斐駒、北岳、間ノ岳などの南アルプスの山々、むろんカールを挟んで前穂の北尾根、奥穂高そして夢にまで見た滝谷の大障壁。その右に笠ヶ岳の巨体。やがて常念の右肩より旭日が登り、奥穂の巨体が真紅に燃える、槍も僅かに燃えている。モルゲンロードだ。これだけでも昨日の辛苦は吹っ飛んだ。広大なパノラマを満喫し後ろ髪を引かれるおもいで頂上を後にし、可憐な花々を映しながら下山。東稜のゴジラの背中もバッチリとカメラに収め、涸沢小屋にて奥穂グループを待ち合流、ヒュッテでおでんを賞味し、横尾へと下り、ほどなく槍グループと合流して、お互いの健闘と無事を讃えあって、温泉の待つ乗鞍高原へと向かった。無踏の山の頂に立てた喜びはもとより、また数人の知人が出来た事が、私には大きな財産である。